

「三川町身体障害者福祉協会の皆さんと町長との語る会」記録 (R7.10.14) 参加者 14人

No.	当日の記録		担当課等からの回答 (後日回答)	
	質問事項等	答弁等	対応課等	各課の対応
1	災害に備えて備蓄を行いたいと考えているが、なかなか難しい。どうしたらよいか。	〔回答者：健康福祉課長〕 備蓄については、自分で出来る方は自分で行う。何を準備したらよいかわからない方は、防災ガイドブックを確認したり、町へ防災講座の要望をいただければと思います。 なお、町では食料や水の備蓄は行っておらず、災害時は近隣スーパーから優先的に供給してもらえるような協定を結んでいます。	危機管理室	左記回答のとおり。 特に、応急時には個別のアレルギー対策等も難しいため、避難時にすぐに持ち出せるよう日頃からご準備ください。
2	非常用持出袋をもらったが、何十年も前のもので劣化してしまっている。新しい物へ交換などは行っていないのか。	〔回答者：健康福祉課長〕 災害備蓄を行うきっかけとして配布していたため、新しい物への交換などは行っていません。	危機管理室	左記回答のとおり。 ホームセンターなどで販売されておりますので、ご活用ください。
3	避難時に一番重要なのは水だと思う。昔は、各家庭井戸水を利用していたが、災害時にその井戸水を利用することはできないのか。(町内で利用できる井戸水はあるのか)	〔回答者：町長〕 無いはずです。	建設環境課 環境整備係	仮に現在使われていない井戸があったとしても、水質の問題があり利用は難しいと考えています。
4	災害時、町全体として1日どれくらいの水が必要か。	〔回答者：健康福祉課長〕 災害の規模や種類(地震・水害)によって異なると思います。	危機管理室	大人1人あたり、1日3リットルが必要だとされています。 災害発生時に本町内で避難生活を送っている人数にもよりますが、避難者数が仮に7,000人とすると3日間分で63,000リットル(ドラム缶で約30本分)が必要になる計算になります。
5	在宅で透析を行っているが、災害時自宅で透析が出来なくなった場合、大きな病院で対応してもらう必要がある。その場合移動手段は自分で確保したほうがよいのか、町が用意してくれるのか。	〔回答者：健康福祉課長〕 災害時の移動について町による個別対応は難しいと想定されます。自分だけでなく周囲と協力して、移動手段を確保する形になると思います。	危機管理室	左記回答のとおり。 個別の避難行動を町が支援することは難しいので、災害時にはどうやって避難するか、日頃から医師や支援者とよく相談しておくことが大切です。
6	避難所には椅子などはあるのか。	〔回答者：健康福祉課長〕 各小学校が避難所になると考えられるため、パイプ椅子があります。	危機管理室	左記回答のとおり。

No.	当日の記録		担当課等からの回答（後日回答）	
7	ハザードマップについて作成されているか。	〔回答者：健康福祉課長〕 防災ガイドブックとして各家庭に配布されています。	危機管理室	左記回答のとおり。
8	ハザードマップについて、以前公民館に掲示されていたと思うが、もっとみんなの目につくような場所に掲示した方がよい。具体的にごみステーションなどどうか。	〔回答者：健康福祉課長〕 持ち帰って検討します。	危機管理室	対応可能ですので、ご希望の方は町内会長を通じてお知らせ願います。
9	LINEなどにもハザードマップ掲載した方が便利になると思う。	〔回答者：企画調整課〕 持ち帰って検討します。	危機管理室	町ホームページに掲示してありますので、そちらをご覧ください。
10	交通について、本数が減ったものや乗り換えなければいけなくなったもの、時間的にかみ合わなくなったものなどがあり不便。デマンドで町外へ行くことはできないか。	〔回答者：健康福祉課長〕 町内に路線バスがあり、交通空白地帯とはいええないため、デマンドタクシーを町外へ走らせることは現状難しいです。	企画調整課 企画調整係	左記回答のとおり。 なお、バス路線との接続を考慮した時間帯の調整等、適宜ニーズに合わせた運行の見直しを図って参ります。
11	新聞で見たが、沖縄県の石垣島で「ごみ減らそうリサイクル市」を行っており、来場者もすごく賑わっていた。各家庭で、まだ使えるもの、利用してもらいたいものを活用し、ごみを減らしながら賑わいを作ってみてはどうか。	〔回答者：健康福祉課長〕 社会福祉協議会でも、食料品についてはフードドライブを行っています。食料品以外でも、何かイベントが出来ればよいは思うので、担当課へ情報提供します。	建設環境課 環境整備係	菜の花まつりでおもちや交換会を企画したが、応募が少なく断念した経緯がある。バザーや不用品交換会などには一定の規模が必要となることから、町単独での実施は難しいと考えております。
12	交通について、免許を返納してしまうと、どこにも行けなくなる。歩いて行ける範囲にも限りがある。幹線道路沿いであれば、バスもあるが遠い。車がないと不便になってしまう。	〔回答者：町長〕 車がないと不便になるというのは、地方が抱える大きな課題であると思います。私自身今年度免許更新を行いました。更新するためには、大変な勉強をしなければならないということも改めて感じたところでした。免許返納と言われている世の中ですが、この地域では、車は生活の必需品という位置付けです。一定以上の運転技術と、交通ルールを守ることができる判断された皆さんには今後も運転を続けて欲しいと思っております。	企画調整課 企画調整係	幹線バスの利用については、バス停までの公共交通としてデマンドタクシーを整備していますので、積極的な登録・利用をおすすめします。
13	運転を辞めてしまうと認知症になってしまうのでは、という思いもある。ぜひこれからも長く運転できるよう、皆さんと一緒に頑張っていきたい	〔回答者：町長〕 自ら外に出て人と関わる、会話をする、喋ることが認知症の予防に大切だと思います。皆さんにもぜひ、そういった場に積極的に参加していただくことが大切だと思います。	地域包括支援センター	左記回答のとおり。
14	要支援者名簿を作成し個別避難計画を作成しているとのことだが、対象者一人ひとりの、実態に沿った避難計画を作成しているのか。	〔回答者：健康福祉課長〕 個別避難計画は、対象者と相談のもと作成していると認識しています。	危機管理室	左記回答のとおり。
15	病気により今後、介護の支援などが必要になってくると思うが、その場合、相談先はヘルパーと町、どちらが先か。	〔回答者：健康福祉課長〕 声を上げてもらうことが大切ですので、どちらへの相談でも大丈夫です。	健康福祉課 福祉介護支援係	左記回答のとおり。